

2008.12.6

作曲家シリーズ

ドヴォルザークの世界

プログラム

10月のブラームス特集に続いて、今回は作曲家のシリーズとしてドヴォルザークを取り上げます。ドヴォルザークはチェコ国民音楽の推進者として有名ですが、ブラームスはその才能を高く評価し、多くの曲を出版させたことで、一躍世に知れ渡りました。ドヴォルザークの作風は母国の民俗音楽を積極的に取り入れていることは勿論ですが、ワーグナーやブラームスの影響から感じ取れるドイツ的な手法やアメリカ・インディアンの音楽を取り入れるなど(1892年から3年間アメリカに滞在)、多くのものを吸収して独自の世界を作り上げた作曲家とも言えると思います。“ノスタルジアな旋律、力強い表現力” そんな魅力に溢れたドヴォルザークの作品をたっぷりお聴きください。

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904) :

ヴァイオリン協奏曲イ短調op.53 ~ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章から

ウォルフガング・シュナイダーハン (ヴァイオリン)

ヴァーツラフ・ノイマン指揮ブラハ・フィルハーモニー管弦楽団

(1972. 6. 5 ウィーン・ムジークフェラインザールLive)

序曲“自然の王国で” op.91

ラファエル・クーベリック指揮フランクフルト放送交響楽団

(1972. 6. 30 ヘッセン放送協会大ホールLive)

スラヴ舞曲集—第8番ト短調op.46-8

セルジュ・チェリビダッケ指揮ロンドン交響楽団

(1980. 4. 18 NHKホールLive)

スラヴ舞曲集—第10番ホ短調op.72-2

ウォルフガング・サヴァリッシュ指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

(1993. 3. 24 ドヴォルザーク・ホールLive)

スラヴ舞曲集—第15番ハ長調op.72-7

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団

(1975. 5. 27 日比谷公会堂Live)

*** 休憩 ***

ピアノ三重奏曲第4ホ短調“ドゥムキー” op.90~第1楽章、第4楽章~第6楽章

スーク・トリオ (ヨゼフ・スーク (ヴァイオリン) /ヨゼフ・フツフロ (チェロ) /ヤン・パネンカ (ピアノ))

(1976. 6. 25 東京文化会館大ホールLive)

歌劇“ルサルカ” op.114 ~ 月に寄せる歌

ルネ・フレミング (ソプラノ)

ジョセフ・コラネーリ指揮東京フィルハーモニー管弦楽団

(2001. NHKスタジオLive)

交響曲第7番ニ短調op.70 ~ 第1楽章~第4楽章抜粋

ヤン・クレンツ指揮ザールブリュッケン放送交響楽団

(1994. 3. 20 コンGRESハレ大ホールLive)